

2025 年度 グループホームネバーランド 事業報告書

1. 施設の概要

事業の種類: 認知症対応型共同生活介護、介護予防認知症対応型共同生活介護

定 員: 各ユニット9名(合計 18 名)

対 象: ・要支援2または要介護度1～5と認定されている方

・認知症と診断されている方

・姫路市内に住民票があり居住されている方

・医療的処置を必要としない方

2. 職員配置数

(1)職種別人員

2026 年 3 月 31 日現在 (単位:人)

(各ユニット)	基準数	現員
管理者	1	1
計画作成担当者	1	1
介護職員(日中)	日中利用者 3 人に 対して 1 名配置	3 人以上

3.利用の状況

(1)1日の流れ

7:00	起床・洗顔・着替え等	14:00	ラジオ体操・レクリエーション・入浴
7:20	朝食準備	15:00	喫茶・おやつ
7:45	朝食	15:30	リハビリ訓練(歩行、階段昇降等)
8:50	ラジオ体操・体温、血圧測定	17:00	夕食準備・口腔体操
10:00	レクリエーション・余暇活動・入浴	17:30	夕食
11:30	昼食準備・口腔体操	19:00	着替え
12:00	昼食	20:00	消灯

(2)平均介護度

要介護度	全体	割合
要支援2	1	5.5%
要介護1	6	34%
要介護2	8	44%
要介護3	2	11%
要介護4	1	5.5%
要介護5	0	0%
合 計	18	100%
平均介護度 1.88		

(3)平均年齢

	男 性	女 性	全 体
平均年齢	89.2	90.2	89.7
最高年齢	93	102	102
最低年齢	88	77	77

(4) その他、行事、外出、支援状況等

日付	行事
4月20日	たこ焼き作り
4月23日	マクドナルド&河童見学
5月6日	プリンパフェ作り
5月17日	加西イオン外出
5月23日	いちご狩り
6月20日	かき氷作り
6月20日	どら焼き作り
6月25日	コメダ珈琲外出
6月27日	バースデいのケーキ
7月9日	たこやき作り
7月20日	瑞岡神社神事
7月31日	かき氷作り
8月10日	フルーツポンチ作り
8月20日	スイカ割り
9月7日	アタリやの羊羹
9月13日	たこ焼き作り
9月15日	敬老会

日付	行事
10月6日	おはぎ作り
10月11日	屋台見学
10月18日	お汁粉づくり
10月20日	花火大会
10月21日	焼き芋
10月31日	誕生日会
11月10日	ベビーカーステラ作り
11月28日	クレープ作り
12月22日	クリスマス会
12月29日	忘年会
1月12日	とんど見学
1月15日	姫路神社ご祈祷
2月3日	節分行事
2月14日	バレンタインイベント
3月19日	ホットケーキ作り
3月29日	和菓子処手毬の和菓子
3月31日	お花見

※毎月2回ハンドマッサージのボランティア来所

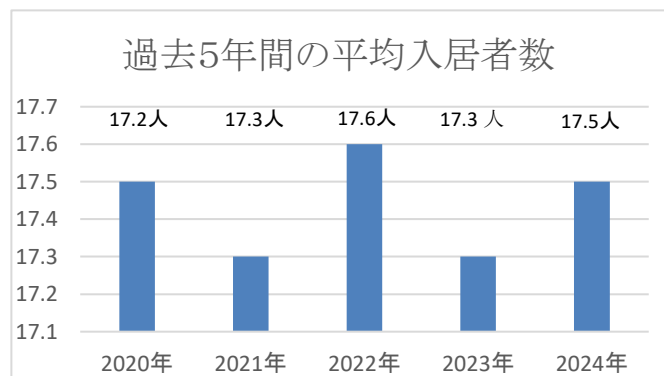
4. 目標と実績

平均入居者数	目標	結果
	17.8名/日	17.3名/日

達成率
97.2%

・過去5年間の平均入居者数 (単位:人)

2020年	17.2
2021年	17.3
2022年	17.6
2023年	17.3
2024年	17.5



5. 事業計画に対する結果と考察

2025 年度の 1 日平均利用者数の実績は、17.3 名と目標(17.8 名)より 0.5 名少ない結果となった。入院件数が 4 件(脳梗塞が1件、急性胃腸炎が 1 件、大腿骨骨折が 1 件、心不全が 1 件)であり、平均入院日数が 18.5 日と早期に退院調整を行うことが出来た。ただ、急な状態変化による療養型施設への入所が 3 名、当法人内の従来型特別養護老人ホームとユニット型特別養護老人ホームへの異動が 4 名あり、稼働率の低下に繋がった。

※2025 年度 退居者内訳

- ・従来型特別養護老人ホームへ異動 (3 名) ユニット型特別養護老人ホームへ異動 (1 名)
- ・療養型施設入所 (3 名)

※空床期間…平均 17.6 日 (2024 年度空床期間…平均 26.5 日)

○健康面について

訪問看護ステーションとの連携により、利用者の状態変化について早期に対応を行うことが出来た。また体調不良時には家族の協力のもと、早期に受診を行うことによって、体調の悪化を未然に防ぐことができた。今後とも訪問看護師、主治医、家族との連携を密に行い、利用者の健康維持に努めていく。新たに入所された方に関しては転倒リスクが高い方もおられるので、家族とも相談のうえ、適切な福祉用具を導入し、転倒リスクの軽減に努める。また、日々の運動等を積極的に行うことにより、現在の能力を維持出来るように努める。

○生活面、人材育成に関して

昨年度に引き続き、状況を見ながら少しずつ外出行事の実施や地域行事への参加を行うことが出来た。また、昨年度に引き続きテイクアウトを定期的実施し、食の楽しさを提供出来るように努めた。日々の生活においては、施設周辺の散歩を行い、気分転換を行いながら運動量の確保に努めた結果、ADL 能力の低下を予防することが出来た。ただ、冬季や夏季は外出が難しく、運動量の確保が難しい為、施設内で出来る運動等を増やしていき、今後も日々の生活の中で、色々な楽しさを提供出来るようにしていく。

今年度の利用者の入れ替わりは 7 名おられたが、転倒リスクが高い方もおられ、入居時から福祉用具の活用を行い、安全に生活していただけるように努めた。その他の方に関しては比較的狀態が安定した方が多く、穏やかに生活を継続していただくことが出来た。ただ、今後は様々な認知症の症状に対応出来るように、毎月のカンファレンスにおいて、職員間の情報共有を密に行い、個別サービスの向上に努める。また、認知症について考える会議にて各部署とも情報共有を行い、より良い対応方法について学びを深める。資格取得に関しては、認知症対応型サービス事業管理者研修を 1 名受講予定である

○収支について

収支については、同法人内への利用者の異動が 4 名あり、今後とも定期的な異動が見込まれる。部署としては減収であるが、法人全体としては増収に繋がっている為、今後とも家族の意向を伺いながら、従来型特別養護老人ホーム及びユニット型特別養護老人ホームへの案内を継続して行っていく。また、利用者の状態に応じて適宜区分変更を行い、収入の増加に努める。空床期間については、平均 17.6 日と昨年度より 8.9 日短縮することが出来た。今後も空床期間3 週間を目標とし、退所前より段階的に準備を行うことにより、空床期間の減少に努める。

○待機者に関して

待機者については、入居者の入れ替わりが7名あった為、3名と減少傾向である。今後は、地域包括支援センターが行うブロック研修に参加し、ケアマネジャーとの繋がりを広げることにより、新たな利用者の紹介に繋げる。また、施設ケアマネジャーが4月より変更となる為、各事業所に訪問を行い、関係性の構築に努める。

○家族との連携に関して

面会については予約制にて、1階のボランティア室での面会を実施している。日々の様子については、利用者家族にソーシャル・ネットワーキング・サービス(LINE:ライン)に登録していただき行事の写真や動画を送信した。入居者18名中16名の家族がLINEに登録済みであり、登録されていない家族については、定期的な訪問時(物品持参時)に日々の様子を伝えるとともに、電話やショートメールにて都度連絡を行っている。また、いきつけの美容室への外出支援や、家族との外食やドライブ等の外出支援を行っている。グループホームの特色として、今後とも家族と入居者との絆を大切にし、少しでも不安感や寂しさを軽減できるように支援を継続していく。